

令和4年度
札幌芸術の森及び
本郷新記念札幌彫刻美術館
事業報告書

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

目 次

I	管理業務の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	管理業務に係る収支決算・・・・・・・・・・・・	22
III	管理に関する協定書 第33条に規定する自主事業の実施状況・・	23

I 管理業務等の実施状況

1 統括管理業務

▽ 管理運営に係る基本方針の策定

【札幌芸術の森】

芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。

- ①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施
- ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり
- ③自然と調和した事業展開と場づくり
- ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実
- ⑤安全で利用しやすい施設づくり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。

- ①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開
- ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信
- ③利用者の拡大と次代の担い手の育成
- ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

【札幌芸術の森】

利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。

受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにした。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場 28℃、冬場 24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象

にクールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度 50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引いたり、不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。
- ・野外ステージ観客動線上の照明灯具、貸室（アートホール大練習室）の照明灯具の LED 化を進めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を控えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）

【札幌芸術の森】

- ▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。
- ▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。
- ▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員 7 人を配置している。
- ▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。
 - ・ 4～5 月 新採用研修
コンプライアンス研修
安全運転講習
 - ・ 8～9 月 管理職マネジメント研修
 - ・ 10 月 コンプライアンス研修
 - ・ 12 月 管理職マネジメント研修
 - ・ 1～2 月 情報セキュリティポリシー研修

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。
- ▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員 3 人を配置している。
- ▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。
 - ・ 4～5 月 新採用研修

- コンプライアンス研修
- ・ 6月 現場研修「生誕 100 年 藤川叢三展」展
普通応急手当講習
- ・ 8～9月 管理職マネジメント研修
- ・ 9月 現場研修「建築家上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ」展
- ・ 10月 野外彫刻のメンテナンスを学ぶ
防火管理研修
自衛消防訓練
コンプライアンス研修
- ・ 11月 インボイス実務対応セミナー
- ・ 12月 現場研修「New Eyes 視線のはなし」展
- ・ 1～2月 情報セキュリティポリシー研修
- ・ 2月 ウェブアクセシビリティ研修
情報セキュリティポリシー研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

- ▼ 財団内 LAN によるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。
- ▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者（受付、警備、施設設備管理、清掃）と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。
- ▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 財団内 LAN によるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

【札幌芸術の森】

- ▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。
- ▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。
- ▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

- ▼ 札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月22日)	(1)令和3年度管理運営業務の報告について (2)令和4年度管理運営業務の経過報告について
第2回 (9月22日)	令和4年度管理運営業務の経過報告について
第3回 (12月22日)	(1)令和4年度管理運営業務の経過報告について (2)条例規則等の見直しに関する札幌市との調整事項について
第4回 (3月14日)	令和4年度管理運営業務の経過報告について
<p><協議会メンバー></p> <p>地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長</p> <p>利用者：施設利用者</p> <p>有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、MICE 団体</p> <p>ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア</p> <p>札幌市：市民文化局文化部長</p> <p>指定管理者：芸術の森事業部長</p>	

- ▼ 政策推進連絡会の開催

開催日

令和5年1月31日 14時00分～16時00分

意見交換等の項目

- ・今年度の予算執行見込みと次年度予算について
- ・次年度の事業展開について
- ・各種協議事項

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
-----	---------

第1回 6月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画
第2回 10月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業経過報告(4～9月) ・令和5年度事業企画状況
第3回 3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業経過報告(10～2月) ・令和5年度主催事業 ・施設・管理・運営面での報告
<p><協議会メンバー></p> <p>利用者団体: 札幌市立大倉山小学校 PTA</p> <p>利用者団体: 札幌彫刻美術館友の会副会長</p> <p>地元自治会: 宮の森明和会会長</p> <p>学識経験者: 札幌市立三角山小学校校長</p> <p>財団評議員: 彫刻家</p> <p>札幌市: 市民文化局文化部文化振興課課長</p> <p>指定管理者: 彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長)</p>	

▼ 政策推進連絡会の開催

開催日

令和5年1月19日 10時00分～11時30分

意見交換等の項目

- (1) 今年度の予算執行見込みと次年度予算について
- (2) 次年度の事業展開について
- (3) 第4回本郷新記念札幌彫刻賞の進捗確認と今後の流れについて
 - 芸術の森野外美術館への設置に係る検討状況
 - ①設置の可否
 - ②設置場所
 - ③素材・大きさ・重量
 - ④設置にかかる予算
- (4) 今後の政策推進連絡会について

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

- ▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。
- ▽ 要望・苦情対応
- 【札幌芸術の森】
- ▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内 LAN によるグループウェアソフト等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。
 - また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるように対応した。
 - ▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。
- 【本郷新記念札幌彫刻美術館】
- ▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。
 - ▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。
- ▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）
- 【札幌芸術の森】
- 【本郷新記念札幌彫刻美術館】
- ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。
 - ・管理業務に関する諸規程
 - ・文書管理簿
 - ・各年度の事業計画及び事業報告書
 - ・収支予算・決算に関する書類
 - ・金銭出納に関する帳簿
 - ・物品の受払いに関する帳簿
 - ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類
 - ▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。
 - ▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。
 - ▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。

2 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

- ▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上（事故の有無などの安全衛生面を含む）

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 適正な内容で 36 協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。
- ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。
- ▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。
- ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。
- ▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。
- ▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。
- ▼ 木工房の管理運営にかかる法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に努めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、より一層安全な工房管理に努めている。
- ▼ 労働災害・事故について、5 件の労働災害が発生した。うち、1 件は雪庇落とし作業中の転落事故による骨盤骨折の重大事故を含む。

3 施設・設備等の維持管理業務

- ▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）

【札幌芸術の森】

- ▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。
また、管理課職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を週に 1 回実施し、施設管理に係る情報共有、安全教育を行った。
- ▼ 園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。市内熊出没情報を注視し、周辺で熊の出没があった場合は、警備巡回の頻度を増やし来園者が安心して利用できる環境の確保に努めた。

- ▼ 冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないようにするとともに、安全の確保にも努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。
- ▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間で随時共有している。
- ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。
- ▼ イベント開催時に園内つづら折り階段で転倒事故が1件あり、イベント主催団体加入のイベント賠償保険を適用した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。
- ▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。
- ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。
- ▼ 利用者の人身・物損事故は無かった。

▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）

【札幌芸術の森】

- ▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計 45 業務について第三者委託により実施した。
- ▼ 主な修繕について
 - ①陶工房底鉄柱脚部修繕
 - ②野外美術館 散水栓交換
 - ③美術館第2収蔵庫 No. 3 吸収冷温水機補修
 - ④アートホール前石畳補修
- ▼ 野外美術館の作品は、その設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。
- ▼ 主に下記の修繕を行った。
 - ・研修室窓錠、ドア修繕
 - ・本館排煙窓修繕
 - ・本館ファンコン温水流異常解消

▽ 防災

【札幌芸術の森】

▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。

- ・ 第1回消防訓練（総合） 12月18日
- ・ 第2回消防訓練（総合） 3月23日

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。

- ・ 地震発生時を想定した消防訓練 10月21日

4 事業の計画・実施業務

【札幌芸術の森】

▽ 音楽・舞台芸術事業

芸術文化の発信事業として展開してきた「サッポロ・シティ・ジャズ（自主事業）」や、ユース世代の交流による新たな音楽の創造を目指す事業「ユースジャムセッション」、23年目となる札幌ジュニアジャズスクール事業を通年で開催した。

▼ サッポロ・シティ・ジャズ 2022

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催16回目を迎えた。会期は夏から冬にかけ開催し、夏には、オープンエアーな屋外会場を中心に市内10箇所で開催する「パークジャズライブ」、国際ジャズフェスティバルに出演できる権利をかけた「パークジャズライブコンテスト」を、3年ぶりとなるライブ形式で実施した。また、道内外のユース世代の交流を主軸とした「ユースジャムセッション」では、芸術監督としてアメリカ・ボストンのパークリー音楽大学教授であるタイガー大越を招聘し、田中充、橋爪亮督を講師に迎えて4日間のワークショップを行い、最終日には芸術の森の野外ステージで開催した「ノースジャムセッション」で成果を発表した。冬には、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、札幌文化芸術劇場 hitaru を会場に、舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かし「シアタージャズライブ」を開催したほか、札幌市民交流プラザ内の SCARTS コートを利用した普及コンサートや札幌市図書・情報館と共催したライブラリー企画などの事業を展開した。

なお、海外プロモーションとして予定していた、過去2年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣は中止し、次年度以降に見送った。

また通年では、企業・団体との提携で、チ・カ・ホを会場としたサッポロ・サウンド・スクエアや時計台ライブなどのタイアップ事業も実施したほか、市民ボランティアである「ジャズセーバーズ」を募集し、171人が各イベントの運営に携わった。

▼ 札幌ジュニアジャズスクール

23年目を迎えた当事業では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら定期練習を全日程対面で行い、多くの外部演奏会活動に恵まれた。また、国際ユースジャズキャンプ事業の一環としてノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」が来日し、合同演奏会やワークショップを行い、交流を深めた。

ジュニアジャズ活動の振興を目的としたジャズの種プロジェクトでは、道内4地域（広尾、ようてい、幕別、砂川）のジャズスクールと連携し、各地で交流ワークショップを行ったほか、砂川市で行った合同合宿や、札幌で開催した合同演奏会「ともだちコンサート」を3年ぶりに開催した。

▼ バレエセミナー

開催32回目となった当セミナーは、元東京バレエ団プリンシパルの高岸直樹をはじめ、ヒューストン・バレエプリンシパルの加治屋百合子、振付家の森優貴など国内外の第一線で活躍する日本人ダンサー・指導者を招き、新型コロナウイルス対策を徹底した上で、3年ぶりに5日間のプログラムで開催した。

▼ ユースジャムセッション

ユース世代の交流とジャズセッションにより新たなサウンドを創造する3年プロジェクトの3年目。

8月にアメリカ・バークリー音楽大学教授である芸術監督タイガー大越をはじめとし、プロミュージシャンを講師に、札幌ジュニアジャズスクールや道内外のユース世代のメンバー、ジャズコーラスなど41名が参加し「タイガー大越ユースドリームセッション」を結成、4日間のワークショップの成果を札幌芸術の森野外ステージで披露した。あわせてタイガー大越氏による市内外のジャズスクールや学校の吹奏楽部、ジャズ部へのアウトリーチも実施。また、ジャズコーラスワークショップ「SAPPORO CITY JAZZ VOICES」は8か月間に渡り練習を継続した。

令和5年1月には、プロのビッグバンド「札幌ジャズアンビシャス」とユースメンバーとのセッション、ジャズコーラスとの共演を札幌コンサートホールで2日間に渡り開催した。

▼ ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスの定期練習を通年で実施。10月に創成 East Jazz に出演したほか、1月には6回目の定期演奏会として、ユースジャムセッションワークショップに参加した中高生とのセッションや、「SAPPORO CITY JAZZ VOICES」のコーラスと共演し、世代を超えたステージを繰り広げた。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数：8本

総入館者数：145,398人

(自主事業「札幌美術展 昨日の名残 明日の気配」を含む。)

①PIXARのひみつ展

会期：令和4年4月19日～6月28日 70日間

入場者数：67,908人

長編3Dアニメーション映画『トイ・ストーリー』などを手掛けたピクサー・アニメーション・スタジオと、世界最大の科学センターの一つ、ボストンサイエンスミュージアムが共同開発した展覧会。ピクサー・アニメーションの制作の舞台裏に初めて迫り、アニメーション制作のカギとなる8つの工程を分かり易く解説。“PIXARのひみつ”に触れることができる、体験展示となった。

②銀の匙 Silver Spoon 展

会期：令和4年7月16日～9月11日 58日間

入場者数：23,526人

※札幌市文化芸術鑑賞促進事業により観覧料半額

北海道の大蝦夷農業高校(エゾノー)を舞台に、都会育ちの主人公・八軒勇吾の成長を描いた荒川弘作の漫画「銀の匙 Silver Spoon」。2019年に爽やかな余韻を残して完結した本作が連載開始から10周年を迎えることを記念し、約200点の直筆原稿やカラー原画、初公開の制作資料を紹介する本格的な原画展を開催した。また、南区区政50周年連携企画として、北海道畜産の礎の地、真駒内の歴史を紹介する独自展示を行った。関連事業として、帯広農業高校の協力を得て、同校で製造された乳製品やベーコンなどの肉加工品のほか、十勝・帯広の食材や飲食物を学生が販売するマルシェを開催し好評を博した。

③北海道の建築展 2022 受け継がれて進む地域性を見つめて

会期：令和4年9月23日～10月10日 18日間

入場者数：4,370人

※札幌市文化芸術鑑賞促進事業により観覧料半額

日本で唯一国際建築家連合 UIA に加盟する建築家技能集団、JIA 日本建築家協会の北海道支部設立35周年記念事業として、北海道の歴史や地域と深く結びついた建築作品を紹介する展覧会を開催。第一部では、キュレーターの磯達雄氏(建築ジャーナリスト)によって選出された北海道の代表的な建築作品を、時系列に沿って写真パネルや模型により展示した。第二部では、植田暁氏(NPO 法人景観ネットワーク代表理事)が道内の風景と建築をテーマに、北海道支部会員による作品を分類し、解説パネル

と模型等を地図上にリンクさせる形式で展示した。また、中庭や美術館前池では、実物大の建築物や建築素材に触れて鑑賞できるインスタレーション作品を展示した。

④北海道陶芸の変遷 vol.2-現代陶芸の今-

会期：令和4年10月22日～11月6日 16日間

入場者数：2,369人

※札幌市文化芸術促進事業により観覧料半額

北海道陶芸協会が主催する「北海道陶芸展」の50周年、「北海道シニア陶芸展」の40周年を記念し、同協会の歩みと北海道陶芸の変遷を展観する展覧会を開催。両公募展の会員・会友の作品と共にその足跡を辿ったほか、全国の陶芸家の作品や、茶の空間を設えた「茶と陶」の関わりを展示し、北海道における陶芸の変遷を展観した。

⑤野田弘志 -真理のリアリズム

会期：令和4年11月19日～令和5年1月15日 45日間

入場者数：18,688人

※札幌市文化芸術促進事業により観覧料半額

日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人、野田弘志（1936-）。本展では、その画業の全容を概観した。学生時代やイラストレーター時代の作品から画壇デビューを果たした頃の静物画群（「黒の時代／金の時代」）、その名が知られる契機となった新聞連載小説『湿原』（加賀乙彦著）の挿絵原画、自身の死生観を示したシリーズ「TOKIJIKU（非時）」「THE」、近年手掛けている肖像画シリーズ「聖なるもの」「崇高なるもの」までを紹介した。

⑥札幌美術展 昨日の名残 明日の気配

会期：令和5年1月28日～3月12日 38日間

入場者数：4,023人

パンデミック以降、あらためて問題があらわとなった自然と人との関係、そして人と人との結びつきをテーマに、札幌を中心に活躍する8人のアーティストたちの作品を展示。かつてあった「昨日の名残」と、これからの予感させる「明日の気配」の狭間で、おぼろげな輪郭をもつ私たちの現在地を探った。出品作家：上村洋一、北川陽稔、熊谷文秀、佐竹真紀、進藤冬華、中島洋、半谷学、渡辺行夫

⑦札幌芸術の森美術館コレクション選 サッポロ レトロ&モダン

会期：令和4年7月16日～9月11日 58日間

入場者数：9,443人

札幌の都市化が進んだ昭和 30 年代、画家たちは当時の景観や人々の生活を作品に残した。本展では、2022 年の札幌市市制施行 100 周年を記念し、昭和 20 年代から 40 年代頃までの札幌が描かれた当館収蔵作品を中心に展覧した。また、HBC 北海道放送が、昭和 30 年代の札幌を記録した貴重な映像で当時を振り返った。

- ⑧札幌芸術の森美術館コレクション選 加藤顕清そこに「人間像」はあるか
会期：令和 4 年 11 月 19 日 ～ 令和 5 年 3 月 12 日 83 日間
入場者数：14,837 人

日本の彫刻界において昭和初期より頭角を現し、1960 年代にかけてその発展を支えた加藤顕清。収蔵作品の中から、終生テーマとした人物像や、北海道との関わりをうかがわせる馬の彫刻を中心に 15 点を展示。アカデミックな彫刻の一典型をつくりあげるとともに、後進の育成にも力を注いだ作家の作品を紹介する展覧会となった。

▼ 野外美術館

7 月 16 日～11 月 3 日は「札幌市文化芸術鑑賞促進事業」により無料開放となり、7 月 22 日からは謎解きイベント「月夜の空想ミュージアム」を併せて実施した。

来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア 27 人による作品解説を行った。野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる「シールマップ」を制作販売した。また、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

また、札幌市が計画する芸術の森全体の再整備を視野に入れ、11/1 に外部委員を含む「札幌芸術の森野外美術館未来会議」を開催し、いただいた意見をまとめ、札幌市への提言とした。

▼ 教育普及に関する事業

[佐藤忠良記念子どもアトリエ]

彫刻家佐藤忠良作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、ワークショップの企画・実施をした。

<ねんどで彫刻>

通年

参加者数：505 人

<まんがのペンでお絵かき>

会期：7 月 28 日～7 月 31 日、8 月 4 日～8 月 7 日、8 月 11 日～ 8 月 14 日、8 月 20 日、8 月 21 日 計 14 日間、28 回

参加者数：107 人

<たべないであじわう! ?りんご>

会期：12月3日、12月4日 計2日間、2回

参加者数：8人

<ちびっこ油絵>

会期：1月7日～1月9日、1月14日、1月15日、1月21日、1月22日、1月28日、1月29日、2月4日、2月5日、2月11日、2月12日、2月18日、2月19日 計15日間、30回

参加者数：116人

▽ 工芸・工房事業

▼ 第22期工芸館常設展示事業

クラフト作家への展示機会の提供、市民には良質の作品と出会い購入できる場の提供により、クラフト文化の普及を図るため、工芸館の展示ホールに常設展示スペースを設置している。開設から22期目となる今年度は、夏秋冬の3期ごとに20数人の作家を入れ替えた。作品には作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。

今年度の出品家は北海道内で活動する62人。

会期：令和4年7月16日（土）～令和5年3月26日（日）

※11月19日～3月26日の冬期間は土日祝日の開場

会場：工芸館展示ホール・クラフトギャラリー「ベストポケット」

斡旋販売額：4,625,450円（前年度実績：5,003,274円）

▼ 工芸・版画講習会事業

毎年、陶芸、テキスタイル、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野の講習会を毎月企画している。個人を対象に初級から上級までの幅広い内容の個人向け講習会を開催したほか、修学・研修旅行やPTA、企業等のグループ向けの「グループ講習会」、札幌市内の児童会館を対象とした子供向けグループ講習会、クラフト工房来館者が事前の申し込みなしで気軽に作品制作を体験できる「ふらっとクラフト体験」などを実施。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に施した上で、一年を通して開催した。

また前年度に引き続き気軽に制作体験出来るキット「おうちdeクラフト」をクラフト工房窓口やオンラインストアなどで販売し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験出来る機会を創出した。

（令和4年度末時点8種販売中）

会期：令和4年4月～令和5年3月

会場：クラフト工房（大・中・小制作室）、木工房、織工房、染工房、版画工房

講習会総実施回数：316回（前年度実績：135回）

講習会総受講者数：3,432人（前年度実績：1,482人）

ものづくり制作体験キット販売個数：466個（前年度実績：948個）

▼ アウトリーチ事業

①ものづくり制作体験キットを活用した事業展開として、小学校授業の一環である札幌市主催の「学校 DE カルチャー」を実施した。

会期：令和4年12月

実施回数：1回（前年度実績：1回）

実施校：札幌市立北都小学校3学年

実施人数：65人（前年度実績：66人）

②市内各施設に職員が出向いて工芸講習会の体験イベントを行った。

会期：令和4年10月～11月

実施回数：12回

参加人数：203人（前年度実績：187人）

▽ その他の文化芸術事業

▼ 芸術の森アートマーケット

札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

共催していたライブイベント「OTOTOTABI」を、昨年引き続き、初夏の芸術の森野外ステージで開催した。

また、園内の環境を活用し、マンガやアニメのキャラクターに扮するコスプレ撮影イベント「あめいず村」を共催で開催した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数 14,526人（本館 10,104人、記念館 4,422人）

【本館】

下記の展覧会を開催した。

●特別展

①「札幌彫刻美術館 40年のあゆみ展」

会期：令和3年7月13日～令和4年5月31日

230日間（令和4年度52日間）

入場者数：令和4年度 520人

②「生誕100年 藤川叢三展」

会期：令和4年6月11日～8月31日

70日間

入場者数：1,859人

③「建築家上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ」

会期：令和4年9月10日～12月11日

80日間

入場者数 1,761人

④「New Eyes 視線のはなし」

会期：令和4年12月24日～令和5年4月16日

93日間（令和4年度79日間）

入場者数：1,265人（令和4年度）

⑤札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展

会期：令和4年9月10日～令和5年4月16日

173日間（令和4年度159日間）

入場者数：3,135人（令和4年度）

⑥「さっぽろ雪像彫刻展2023」

会期：令和5年1月27日～29日

3日間

入場者数：714人

●コレクション展

①「はじめてのほんごうしん」

会期：令和4年1月28日～5月31日

106日間（令和4年度52日間）

入場者数：519人（令和4年度）

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。特に、年譜や作品の解説を充実させるとともに、記念館となった後に設営した壁を撤去し、本郷新が過ごしていた建設当時の姿に戻し、建築的な魅力も積極的に紹介した。

①「本郷新・全部展④ 100の石膏像」

会期：令和3年4月29日～令和4年5月31日

247日間（令和4年度52日間）

入場者数：515人（令和4年度）

②「コレクション展2022-23〈記念館〉」

会期：令和4年6月11日～令和5年4月16日

257日間（令和4年度243日間）

入場者数：3,852人（令和4年度）

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞（第4回）

- ・作品募集「第4回本郷新記念札幌彫刻賞」

会期：令和5年3月下旬～令和5年9月3日

▼ 普及事業

●彫美連続講座 2022

実施回数：3回

参加者数：166人（会場聴講113人、オンライン聴講53人）

会場：札幌市民交流プラザ（オンラインでも配信）

●造形教室

- ・夏休み子ども造形教室

参加者数：19人

- ・冬休み造形教室

参加者数：19人

▼ 学校協力

●聖心女子学院中等部による彫刻清掃ボランティア活動

参加生徒数：8人

●学芸員資格取得希望の大学4年生を対象とした博物館実習（館園実習）の受け入れ

参加学生数：大学4年生4人（延べ17日間計101.5時間）

●三角山小学校3年生の総合的な学習の時間枠での博物館利用

参加児童数：延べ363人

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

①サンクスデー

実施回数：2回

入館者数：768人（夏274人、秋494人）

②さっぽろ雪まつり出品

▼ ボランティア活動の受け入れ

ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア（協力員）を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、昨年度より図書・情報コーナーを常時開設したことに伴い、「図書・情報コーナーボランティア」と「スクラップブックボランティア」を一本化し、「資料整理ボランティア」と改称した。

▼ 連携事業

財団他施設との連携

- ・札幌文化芸術交流センター SCARTS と連携して「彫美連続講座」を3回開催した。

5 施設利用に関する業務

【札幌芸術の森】

▽ 利用件数等

▼ 施設の利用状況

		R3実績	R4計画	R4実績
アート ホール アリーナ	件数(件)	199	196	244
	人数(人)	17,330	12,600	15,056
	稼働率(%)	73.9	66	67.8
アート ホール 練習室	件数(件)	1,302	1,476	2,149
	人数(人)	10,189	10,800	14,807
	稼働率(%)	55	50	60.8
野外 ステージ	件数(件)	27	30	44
	人数(人)	8,736	11,160	9,963
	稼働率(%)	67.5	35	24
各種 研修室	件数(件)	2,175	3,122	3,688
	人数(人)	2,693	4,960	4,317
	稼働率(%)	68.3	71	70.9
各種窯	件数(件)	157	249	273
	人数(人)	157	490	273
	稼働率(%)	16.8	24	29.3
各種 アトリエ・ ロτζジ	件数(件)	125	216	215
	人数(人)	655	1,440	1,347
	稼働率(%)	15.1	19	16
駐車場	件数(件)	32,575	55,191	61,659

▼ 入場者数

(人)

		R3実績	R4計画	R4実績
総入園者数		271,719	500,000	410,210
	芸術の森美術館	109,390	170,000	145,398
	芸術の森野外美術館	22,221	50,000	61,451

▽ 不承認 0 件、取消し 53 件、減免 787 件、還付 21 件

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親んでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを7事業開催した。

- ①てくてく MORI さんぽ
- ②芸森バースデー2022
- ③野外美術館謎解きイベント・月夜の空想ミュージアム
- ④有島武郎旧邸朗読会『有島武郎がたどり着いた場所』

- ⑤ホールでピアノを弾いてみよう！ in 札幌芸術の森
スタインウェイ&ベーゼンドルファーフルコンサートピアノ試奏会
- ⑥あしたのげいもり
- ⑦芸森かんじきウォーク
- ⑧雪あかりの祭典「SAPPORO ART CAMP 2023」—YUKIMI HANAMI

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 利用件数等

▼ 施設の利用状況

展覧会事業		R3実績	R4計画	R4実績
本館 展示室	展覧会件数	6	4	4
	開館日数	205	282	281
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	214	295	295
本館入館者数		7,502	9,000	10,104
記念館入館者数		4,344	4,000	4,422

その他事業		R3実績	R4計画	R4実績
本館展示室利用	利用件数	1	0	0
	利用日数	2	0	0
本館 研修室利用	利用件数	8	0	3
	利用日数	15	0	13
本館 屋外利用	利用件数	2	0	2
	利用日数	12	0	7

▽ 不承認 0件、 取消し0件、 減免 0件、 還付 0件

▽ 利用促進の取組

- ▼ 「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

6 付随業務

▽ 広報業務

【札幌芸術の森】

▼ 広報の充実

園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。

▼ ホームページによる情報発信の充実

平成 28 年 11 月に全面リニューアルのホームページ内容をさらに充実させた。また、季節にあわせトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。

サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。

・ホームページアクセス数

R4 : 1,822,301 件 (参考) R3 : 1,588,685 件

▼ その他 SNS による情報発信の充実

Twitter、Facebook や Instagram でリアルタイムの情報発信を行った。

▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供

毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。

▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2023 年 3 月 16 日にホームページに公開した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 通常のホームページ運営に加え、Facebook や Twitter などの SNS でのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。

ホームページアクセス数 : 30,973 件 (参考) R3 : 33,245 件

Facebook フォロワー数 : 1,171 件 (参考) R3 : 1,098 件

Twitter フォロワー数 : 4,976 件 (参考) R3 : 4,594 件

芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。

▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を 2023 年 2 月 8 日に実施し、結果をホームページに公開した。

▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格 JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。

▽ 引継ぎ業務

(前回から継続指定のため、引継業務なし)

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

【札幌芸術の森】

▼ 例年同様、令和 4 年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用と

して、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。

7 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	令和4年4月～令和5年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答 4,621 件 (施設利用者アンケート 463 件、事業アンケート 4,158 件) 施設に対する総合的な満足度は 93.6% (「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接客に対する満足度についても、96.6% (「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、前年度と同様の数値を維持できた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式(通年)
結果概要	回答 1,070 件 来館者の接客に対する総合的な満足度は約 99.2% (「大変良い」、「まあ良い」、「普通」の合計)、施設についての満足度は約 95.4% (「とても満足」、「まあ満足」、「普通」の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】駐車場の広さが足りない 【対応】イベント時の近隣駐車スペースの確保と十分な案内を試みている。 【要望】人がいないこともあり一階事務室での話し声がとても響いていました。 【対応】事務室内での打ち合わせなどで大きな声にならないよう注意した。

Ⅱ 管理業務に係る収支決算

【札幌芸術の森】、【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 収支一覧

(千円)

項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)
収入	842,523	900,816	58,293
指定管理業務収入	783,193	841,068	57,875
指定管理費	670,246	696,654	26,408
利用料金	47,629	45,209	▲2,420
その他	65,318	99,205	33,887
自主事業収入	59,330	59,748	418
支出	873,587	961,839	88,252
指定管理業務支出	799,940	889,042	89,102
自主事業支出	73,647	72,797	▲850
収入-支出	▲31,064	▲61,023	▲29,959
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲31,064	▲61,023	▲29,959

▽ 説明

- ▼ 指定管理費について、今期は令和4年1月～令和4年10月の施設キャンセル、令和4年4月～令和5年3月までの光熱費高騰分の補填を受けたことにより、増収となった。
- ▼ 利用料金収入は主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。野外美術館観覧料収益については、札幌市文化芸術鑑賞促進事業により、7月16日以降の観覧料が無料となっており、それに伴い減収となったが、その分受取負担金（その他に分類）として札幌市による補填がされている。野外美術館観覧料収益以外の利用料金収益については、おおむねコロナによる減収は解消された。
- ▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等。札幌市文化芸術鑑賞促進事業の補助として3,824千円の収入があったため、増収となった。
- ▼ 指定管理業務支出について、当年度中は施設老朽化に伴う計画外の修繕や光熱費の高騰により費用を要したことなどから、支出増となった。
- ▼ 自主事業支出は、ほぼすべての事業でマイナス決算となった。

Ⅲ 管理に関する協定書 第33条に規定する自主事業の実施状況

1 飲食・物販事業

【札幌芸術の森】

▽ レストラン事業

センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間は手軽におにぎりや豚汁を楽しめるテイクアウトメニューを提供。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルリア」を営業した。（利用者：14,963人）

▽ 売店事業

直営で運営しているミュージアムショップでは、オリジナルグッズや地域の作家の作品を販売したほか、展覧会関連グッズや展覧会・季節にちなんだフェアを行い集客に努めた。新型コロナウイルス感染症対策として、来館者同士が距離を保てるよう陳列用棚を減らすなどレイアウトを工夫しながら、展覧会関連商品や作家の紹介を行った。令和4年2月1日よりオンラインショップも開設し、過去の図録を中心にオリジナル商品の販売を始めお客様へのサービスアップを図った。今後、販売商品の充実を進めていく。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。

2 補助金交付の対象となる自主事業

▽ サッポロ・シティ・ジャズ 2022

※音楽・舞台芸術事業再掲

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催16回目を迎えた。冬には、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、札幌文化芸術劇場 hitaru を会場に、舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かし「シアタージャズライブ」を開催した。

なお、海外プロモーションとして予定していた、過去2年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣は中止し、次年度以降に見送った。

▽ 「札幌美術展 昨日の名残 明日の気配」（札幌市補助事業）

※展覧会事業再掲

テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は、パンデミック以降、あらためて問題があらわとなった自然と人との関係、そして人と人との結びつきをテーマに開催した。

▽ 子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」

札幌市の小学5年生（特別支援学校小学部含む）を札幌芸術の森もしくは本郷新記念札幌彫刻美術館に招待し、芸術作品の鑑賞やそれを踏まえた表現活動に取り組む機会を子どもたちに提供した。募集時に活動希望した197校のうち、192校が参加した。新型コロナウイルス感染症等による校外学習の延期または中止により、本事業の日程変更等は26校、中止は7校の影響が出た。日程変更における学校の事務手続きの利便性を図るため、令和3年度よりオンライン上で申請ができるよう予約システムを導入しており、活用が定着してきている。さらに、本事業への理解を深めてもらうため、活動にかかわる資料の閲覧やダウンロードができるようにホームページを改修した。

コース別参加校数等

- ・芸術の森美術館コース：81校 88回
- ・野外美術館コース：87校 87回
- ・子どもアトリエコース：11校 11回
- ・彫美・鑑賞コース：11校 18回
- ・彫美・表現コース：2校 5回

総参加校数：192校 209回

総参加児童数：13,622人